

旧街道の面影を感じて歩く

社団法人 日本測量協会 測量技術センター 関西支所

水口 康幸



能勢街道から余野街道をしのぶコースについて踏破紀行を述べる。

昨年5月連休にあったコースを逆行する歩行である。近世から明治、未だ“のせでん”が走っていない頃の街道をめぐる歩行である。



(集合状況)

能勢電鉄絹延橋から猪名川沿いに能勢街道を進む。猪名川左岸の堤防敷き道路を歩くことになるが、一般通行の人達の邪魔になるとハイキングの度に思っている。年配の頑固者たちの集まりであるので、気配りに欠けている。今回も自転車通行の人達にかなり迷惑をかけた感じがした。

余野川と猪名川の合流点より、余野川左岸沿いに進み、国道173号を横断し、当時の道標が残る「古江橋」を過ぎると余野街道に入る。初めての道路横断の為か参加者もハイキングスタッフ（以後スタッフと称す）の指示通り、信号無視も無かった。

別名、摂丹街道とも呼ばれる旧街道を丹波方面へ遡って歩を進める。当地（池田市中川原町）は造園業の盛んな土地であり、街道の両脇は樹木畑があり、季節の花（やまぼうし等）が気持ちを落ち着かせてくれる。2回目の道路横断、国道423号では、早くも信号無視者が続出している。「な

んで言うこと聞いてくれへんのや」といった、スタッフの嘆きの姿勢が滑稽であり、可哀相でもある。国道との交差を過ぎ、歩を進めると古い道標がある。



(古い道標)

集落と樹木畑が混在する街道を進み国道423号に出る。ここからしばらくは、国道423号沿いに進み吉田橋の袂より分岐し、坂道を登る。昔の街道が感じられる道である。田畑、集落を抜け再び、国道423号沿いに出る。正面に「鮎茶屋」の不死王閣がある。以前はかなりお客さんもあり、賑っていたが最近は観光バスも少なく淋しさは否めない。

再び国道423号の側道に入り、八千代橋を目指す。八千代橋の袂で道標と案内板をみて、1回目の休憩を採る。



(道標)



(案内板)

八千代橋を渡らず直進すると、千利休が菊炭を使って茶会を催したとされる「久安寺」へ行けるが今回は旧街道巡りである。機会があれば訪れたい。八千代橋を渡り、寛文10年（1670年）の道標を左に取り歩を進める。



(寛文10年 道標)

マンション横の急な坂道を登り山道歩行となる。この頃になると歩行列もまばらとなるが、坂道では渋滞する。木漏れ日が射す杉木立の中は、新鮮な空気が感じられる。反面、どの様にして運んだのだろうと思われる家庭の廃棄物、洗濯機や冷蔵庫が捨てられていて気分を害する。困ったものである。幾度かの小休止を繰り返し、滞筋に出た。ここからは登りも少ない。他の人達も安堵の顔色である。平坦な道を、供養碑や不動石仏等隠れた史跡を見ながら、当時の峠越えの風情が堪能出来る。



(道供養碑)

ホトトギスや鶯の囀りを聞き、山道を抜けると、枇杷畑や水田が広がる農耕地である。丁度、枇杷の収穫の終期であり、「立ち入り禁止」の札があちこちに見える。水はどこから引用しているのかと思う位置に水田がある。山林の保水能力が豊かで有る為、一定量の水を供給できているのだろう。農耕用の道を進み、「池田五月山」へ通じる車道へ出て、昼食場所を目指す。

梅田新道より延伸した箕面グリーンロードトンネルを眼下にし、街道を進む。この地は2017年開通を目指す「新名神高速道路」のインターチェンジとなる為、橋脚工事や法面工事が施工されており、日焼けした警備員の人が、誘導してくれている。暑いのにご苦労様です。



(箕面グリーンロードトンネル)



(新名神高速道路工事中)

余野川の左岸沿いに進む。この辺りは以前、鮎釣りに通った懐かしい場所である。好漁の時は50mの範囲で20数匹、不漁の時は「ヒゲラシ」の「かなかな」の泣き声がよりいっ層悲壮感を増してくれたことを思い出す。アスファルト舗装の照り返しのきつい車道をたどって歩き昼食場所、スノーピーク「箕面自然館」の広場へ到着する。格段と厳しい日差しではなかったが、やはり日陰を求めて、皆さん場所を確保している。



(昼食状況)

手作り弁当男飯（でっかいおにぎり）で、満腹になり、45分の休憩の後午後の出発である。

3回目の車道横断であるが、歩行の列も散々となり単独行動となる為、違反者も無く、誘導係のスタッフも安心顔であった。

箕面森町宅地造成により新設された歩道を進み旧街道との分岐に至る。



(旧街道との分岐)

箕面森町が出来た事により、豊能町中心部からの通勤も、渋滞する国道423号を経て阪急池田駅へ行ってたものが、阪急バスにて能勢電鉄の「ときわ台」に行く事によりかなり便利になったと思う。

分岐より旧街道を進む。道路と何度も交差して流れる水量の少ない川に「カワムツ」が元気に泳いでいる。日照りが続き水が無くなった場合のことを思うと可哀相である。

吉川峠迄のだらだらと続く、永い坂道を歩行であるが、幸いにも影であり疲労感は無い。青貝山、天台山への登山案内を右に見て、しばらく進み吉川峠に到着。



(駅・登山ルートのご案内板)

午後のスタートから約1時間、小休止である。眼下にときわ台の住宅地が眺望出来る。この地は平成21年街区基準点測量で担当した地区であり、当時の苦労を思い出す。

小休止の後、ゴールの能勢電鉄「妙見口駅」を目指す。途中、ほかのハイキングコースとの交差や重複を繰り返し田園の中を歩く。丁度、田植えが終わった頃で、猪や鹿対策のネット設置や電柵設置で農家の人達の苦労が伺える。自然動物と人間世界の共存の厳しい現象である。



国道477号の横断を経てゴールの妙見口駅に到着した。安全歩行“注意喚起”用の笛を常に、ナップサックに忍ばせているが、今回、使用する勇気がなかった。

本日の距離は14km、時間4時間、参加者人数585名、冷たい飲み物で喉を潤し、孫の保育園の迎えに遅れないよう電車に乗り込んだ。

